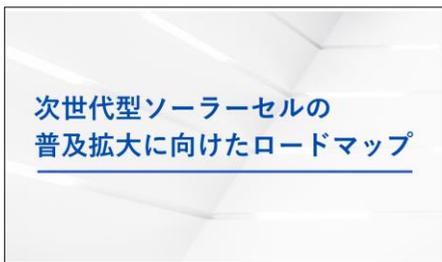


- 次世代型ソーラーセル[※]の早期実用化及び量産体制の構築を一層後押しするため、**都内導入目標**とその達成に向けた**取組の方向性**をまとめた**ロードマップ**を策定
- 国・自治体や事業者等とも連携し、**次世代型ソーラーセルの普及拡大**を戦略的に推進

※ペロブスカイトと呼ばれる結晶構造を用いた次世代型太陽電池



(2025年3月策定)

目標達成に向けた当面の取組

- 1 都有施設への先行導入
- 2 民間事業者への導入支援

▶ 設置事例の蓄積により施工方法等を確立
積極的な導入により量産化につながる需要を創出

- 3 開発支援

▶ 製品開発を後押しし、早期実用化を推進

- 4 普及拡大に向けた広報展開を実施

都内導入目標の設定

◆ 2035年目標：約 1 GW

うち都有施設導入量 約 1 万kW

※次世代型ソーラーセル以外の壁面設置できる太陽光発電設備も含む

◆ 2040年目標：約 2 GW

(参考) 国の導入目標：約 20GW

国の導入目標
の約 1 割

次世代型ソーラーセルの主な特徴

- 1 軽量で柔軟
曲げに強く、軽量化が可能
- 2 低照度でも発電
朝夕や曇り・雨天、室内の照明でも発電が可能
- 3 低コスト化
製造工程が少なく、将来的に大量生産による
低コスト化が期待
- 4 原料の安定確保
主原料のヨウ素は世界産出量の約 3 割が日本

導入目標達成に向けたロードマップ[°]

実装～実装初期

事業者支援や初期需要創出により、施工方法の確立や量産体制の構築等に貢献

実装中期～

量産段階で都有施設への本格導入を推進、住宅・モビリティ等への用途拡大等も後押し

普及拡大期

普及拡大とコスト低減の好循環を促すことで、自立化を実現し、導入目標を達成